

院長のひとりごと2

テーマ「アンコール小児病院」

アンコール小児病院は、1999年にカンボジアシエムリアップ、アンコールワット遺跡の近くに設立されました。

そもそも井津建郎さんというニューヨーク在住の写真家がアンコールワットの写真を撮り、(Take a picture、わたしもNYで個展を見ましたが)有名となり、(Take)取るだけではなくお返し(Give)しなくてはという考えから生まれました。井津さんはNYの外科医、ガネボラ先生を通じ、蒲池理事長を紹介され、さらに広島に住職を中心に、Friends without a border というNPO法人を立ち上げました。そこから設計が始まり、1999年に開院しました。当院の職員も、ほぼ全員年間三千円の寄付をしております。

なぜ、アンコールに小児病院を建てる必要があったのか。1970年代にポルポト派は大量虐殺を行い、開院前にはカンボジア国内に医師が三百人しかいなかったそうです。当然医師、看護師は海外からの派遣が必要でした。開院前には乳幼児死亡率が日本の十倍以上、ほとんどが腸炎による脱水症か栄養失調だったそうです。点滴さえすれば助けられた命なので、日本では考えられない悲惨な状況だったのです。今でも遠方からの受診者も多く、毎日四百〜五百人もいるそうです。まもなく開院二十年を迎えようとしています。まだまだカンボジア国内の貧しさは変わらず、日本からの完全援助、寄付で成り立っています。

当院の研修医や看護師、看護学校の生徒たちは、当地に赴き、地域医療として研修をします。世界にはまだまだ貧しく、苦しい国があることを身をもって体験しており、心を洗うのにいい機会だと思います。

平成二十九年一月三十一日 藤井 茂

第十六章

